

## 令和3年度第2回さいたま市行財政シンカ推進会議 議事要旨

### 日時

令和4年3月16日（水）14時30分～16時00分

### 開催方法

オンライン会議

### 出席者

（委員）

田矢委員長、伊藤委員、高橋委員、沼尾委員、前野委員、吉浦委員

（さいたま市）

市長、小川副市長、都市戦略本部長、総務局長、行財政改革推進部長ほか

### 次 第

- ・ 令和4年度予算、定員管理計画
- ・ 前回の会議で御指摘いただいた事項への対応方針
- ・ 働き方改革の推進

### 議事概要

- ・ 働き方改革推進の目的は、「職員の働きがいをも高める」「効率、公務能率を上げる」それから「市民サービスのさらなる向上」ということであるが、前者二つについては「職員アンケートからの定量化」、「時間外」とKPIが設定されているが、「市民サービスのさらなる向上」については、ベンチマーク・KPIが設定されていない。検討が必要ではないか。
- ・ 民間企業であれば、いわゆる30代は、まさにその組織の骨格をなす方々。もっともモチベーションが高く、達成感は強くあるべき世代だと思う。ここが一番落ちているということは、組織としては、かなり重要な課題だと思う。どうやったら30代・中核の方々が、もっとモチベーション高く達成感を持てるのか考えるべき。
- ・ （カイゼンさいたまマッチも）最初は職員の方たちも、やらされ感からスタートしていると思うが、やっていくうちにすごく楽しくなり、改善し、周りが評価していく過程が楽しく、「次に、次に、」ということに取り組んでいると思うが、市民の皆さんに、うまく伝わっていないと感じる。取組をアップロードして、今に繋がっているということを伝えていくことも、必要ではないか。
- ・ 時間外勤務削減を目標とせず、ワークライフバランス達成の結果として、時間外勤務が減ればよいと思う。今職員がやっている中では、こんなことやらなくていいのにとすることがたくさんあると思う。本当に全部必要かといったところ

から見直すと、もっと職員は、幸せを感じるのではないか。

- 30代は、組織の垣根を超えたところで、良くしたいと思っているはず。オールさいたま市で何が見直せるかという視点で見直していただくとういのではないか。
- モチベーション向上につながる声かけや見守りの形は人それぞれである。どのようなコミュニケーションをとることで自分や相手のモチベーションを上げられるのか。互いの特性を知ることが大切であり、研修などを通じて、共感を生む関係づくりについて考える機会を持つとういのではないか。
- 30代の方に限らず、職場で何が起きているのかをしっかりと把握して、対策につなげていくことが必要ではないか。
- 住民からの感謝の声や、私たちの理念は何なのか根本を考え直し本質的なところを問うことが、真の意味での「楽しい」や「充実感」に繋がる。楽しくわくわくと、働きがいを持って、「よし頑張るぞ」という気持ちで働くことができるような、やりがいや仲間意識につながる施策についても検討していくべき。
- 役所の仕事は、個人の裁量に一定の縛りがあるが、裁量を少し与えてあげた方が仕事をしやすいという部分もあるのではないか。仕事に対する考え方の多様性を認め、無駄な縛りは削り、仕事をさせてあげるような環境を作るとよいのではないか。